

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
6	地図の発展とGISの活用	☑ 1	地形が平らな所に人口が分布しており、特に「両毛線」の「足利駅」を中心に主要道路沿いの交通の便がよい所で人口が多く、飲食店もここに多く立地している。
7	アジア・ヨーロッパ・北アメリカ	☑ 2	インドとアメリカ合衆国の経度差は約180度であることが読み取れる。この2国間では、一日の昼と夜が逆転しているため、データ処理業務などを連続して行うことができるなど、特にICT産業の分野で役立てられている。
9	ユーラシア	☑ 3	ギリシャのアテネやポルトガルリスボンなど(これらは、ヨーロッパでは南部に位置し、日本や韓国は、ヨーロッパと比較して低緯度にあることがわかる)。
13	中国の鳥瞰図	☑ 4	①・②図から、中国の地形は、西部は険しい山脈や高原で、東部は比較的平坦であるという特徴が読み取れる。さらに、東部を南北に分けると、南は起伏があるなかに盆地が分布し、北は平原が広がるという特徴が読み取れる。
15	中国要部	☑ 5	チンリン山脈とホワイ川とを結ぶ線の北側には畑作地、南側には稲作地が多い。(この線は、年降水量1000mmとほぼ一致する。)
19	中国主題図	☑ 6	中国の人口移動は、内陸部から沿海部への動きに特徴がある。これは、沿海部で1人あたりの工業生産額が高く、仕事を求めて農村の多い内陸部から沿海部へ人が移動しているためであると考えられる。
19	中国主題図	☑ 7	長江区や華南区は、年降水量が1000mm以上あり、米の生産が多い。華北区は、年降水量が1000mm未満で小麦の生産が多い。東北区は、1月の気温は低いがとうもろこしの生産が増えている。西部区は、年降水量が少なくおもに牧畜が行われている。
22	【Global Eye】中国	💡 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
22	【Global Eye】中国	🔍 探究	1e図から中国の経済は、21世紀に入って急激に伸びたことが読み取れる。1c・d図から、貿易額も大きく伸びており、輸出品も機械類や自動車などの工業製品が中心になっている。貿易相手国・地域を1a図と1b図で比較すると、いずれとも流線は太くなっているが、特にアメリカ合衆国やEUでは輸出の方が太く、対オセアニアでは輸入の方が太くなっている。また、2図から中国からの対外直接投資が急増しており、その相手と内訳は、アフリカやASEAN、オーストラリアなどに対するエネルギーや輸送系などで、中国経済の成長に見返りが期待できる相手や分野となっていると考えられる。
23	朝鮮半島	☑ 8	中国と北朝鮮の境界は国境である。一方、北朝鮮と韓国の境界には軍事境界線とあり、p.3の凡例から未確定・係争中の国界であることがわかる。
25	東南アジア	☑ 9	赤道が通過している国はインドネシア、赤道に一番近い首都はシンガポールである。
28	東南アジア要部	☑ 10	稲作地は、インドシナ半島ではメコン川やチャオプラヤ川、エーヤワディー川など大河川の河口の三角州(デルタ)地帯に多くみられる。インドネシアでは、ジャワ島に多い。
29	東南アジア主題図	☑ 11	アジアで米の生産が多い地域は、夏のモンスーンによる降水量が多い地域と重なり、特に生産量が多い地域は、これらの雨を集めて流れる大河川の流域である。
30	東南アジア主題図	☑ 12	スマトラ島では、森林が開発されて油やしなどの巨大農園に変わっている。熱帯林の伐採によって、野生生物種の減少など生態系が破壊され、森林による二酸化炭素を吸収する機能が失われている。
31	【Global Eye】ASEAN	💡 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
31	【Global Eye】ASEAN	🔍 探究	2図から、ASEAN諸国の貿易額は、著しく伸びており、4図から輸出品目の内訳も、多くの国で一次産品から機械類へと変化したことが読み取れる。貿易額の増大は工業化によってもたらされ、その背景には、6図のような積極的な直接投資の受け入れがある。この結果、ASEAN諸国では、6図のように経済成長率が高く、5図のように国内総生産(GDP)も高くなった国がみられる。

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
32	【Global Eye】インド	 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
32	【Global Eye】インド	 探究	インドでは、 1a 図にある経済の自由化を背景に21世紀になって急速に経済が成長し、 2c 図でもわかるように貿易額も急増している。これを牽引しているのが、 2f 図にあるICT産業の急成長で、 1b 図には、ベンガルールをはじめとして、ICT産業がさかんな都市が多く分布する。 2g 図からICT産業の輸出先は、アメリカ合衆国が多く、ITサービスなどで密接な関係にあると考えられる。また、 2b 図から、外国に住むインド人は、アメリカ合衆国に定住している人が多いことも読み取れ、優秀な人材として世界を舞台に活躍していると考えられる。(ICT産業におけるインドとアメリカ合衆国の関係は、p.7の読図の解答を参照。)
33	南アジア	☒ 13	ヒマラヤ山脈は、プレートの移動により現在のインド半島が移動してユーラシア大陸に衝突してできた。その東部では、インド半島が食い込むような形で陸地にしわがより(褶曲が起こり)、山と川が交互に並んでいる。
35	インド要部	☒ 14	稲作地は、ガンジス川の流域や沿岸部で、年降水量が1000mm以上の地域に多い。
38	西アジア	☒ 15	カスピ海沿岸のパクーから、トビリシを通りジェイハンに至るBTCパイプラインを利用することで、カスピ海の原油を直接地中海に送ることができる。(ロシア領内や幅の狭いボスポラス海峡を通らないで済む。)
44	アフリカ	☒ 16	アフリカ諸国の国境線は、ヨーロッパ諸国と比較して、直線的な国境線が多い。これは、かつてヨーロッパの列強によって植民地分割された線が国境となったためである。
45	アフリカ北部	☒ 17	耕地が広がっている地域は、おもに熱帯雨林気候とステップ気候の間のサバナ気候の地域である。
48	【Global Eye】アフリカ	 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
48	【Global Eye】アフリカ	 探究	アフリカでは、 1・2 図にあるような農産物や鉱産資源の生産がみられ、 3 図から一次産品の輸出に依存するモノカルチャー経済の国が多いことが読み取れる。 4 図から、原油の産出国などでは、1人あたりのGNIもアフリカとしては高いが、世界全体でみるとこの値は低く経済格差が大きい。 5 図のように通信環境の整備も進んでおり、 6 図から資源が豊富な国では、アフリカ全体への投資に占める割合が高い国もあり、新興市場としてこれからの発展が期待される。